

□ 1.(2)「わたしの心になんていうか」「みこころになんていうか」とは？

主はモーセに「あなたはわたしの心になんていうか」と言われました。

しかし、モーセは主に、主の道を教えてくださいと求めました。

求めた理由は、主を知り、主のみこころになんていうかになるため、だと言いました。

モーセは主の心になんていうかのか、それとも、なんていうかないのでしょうか？

主が正しいとしたら、モーセが間違っているのでしょうか？

主もモーセも、どちらも正しいことを言っています。ここには、聖書が教える救いの原理が示されています。

救いには、義認と聖化の2つの段階があります。義認は信じた瞬間に一度限りで起きたこと、聖化はそのあと日々の信仰生活の中で起き続けることです。

ここでは、主は救いの義認を、モーセは救いの聖化について語っています。

神の目にはすでにみこころになんていうか・・・義認

主は、「わたしは、あなたを名指して選び出した。あなたは特にわたしの心になんていうか」と言われました。これは、救いの義認です。神の目からは「義人」だと認められました。神の心になんていうか人と認められたわけです。聖書では、神の子とされた、とも表現します。信者は、神によって選び出され、導かれ、そして信じることができました。信仰によって義人として認められ、神の子としての地位を与えられたのです。

実際はまだそうではない信者が、それにふさわしく変えられていく・・・聖化

しかし、信者の内側には罪の性質が残っています。その人の内側が、義人としてふさわしく、神の子としてふさわしく変えられていく必要があります。ここから、信仰生活が始まります。そのとき、何が神のみこころになんていうかのか、信者が守るべき生活ルールを知ることが重要です。それが、神の道、神のみことばです。そして、今は、それが聖書として私たちの手にあります。神のことばである聖書を通して、私たちは神を知り、神のみこころになんていうかようになります。

良い行いをするだけで救いを受けるものではありません

救いは、人の行いによらず、神の恵みによって与えられ、それを私たちは信仰を通して受け取ります。信仰によって神の子とされた信者が、神の愛に応答していくとき、神の子にふさわしく内側が変えられていくのです。これを聖化といいます。これもまた神の救いのみわざです。人の努力や行いによるものではありません。